

市ヶ谷田町キャンパス開校

中央大学ミドルブリッジ 都心の新たな 研究・教育拠点

市ヶ谷田町キャンパスは、後楽園キャンパス、市ヶ谷キャンパスに続く、好立地の第3の都心における研究・教育拠点として、2010年4月に開校しました。

JR市ヶ谷駅から徒歩5分、地下鉄市ヶ谷駅前に位置する市ヶ谷田町校舎は、中央線や総武線からもよく見える、外堀通り沿いに建つたいへん目立つ形のビルです。

このビルは、「本学創設者たちが留学したミドルテンプルと125年の時を経て関係を橋渡しする意味と、中央大学の都心の拠点として学生、教職員、学員の関係を橋渡し、コラボレーションしてもらいたいという願いをこめた名称が相応しい」とのことから、通称名を「中央大学ミドルブリッジ」と決定しました。

この施設には、主として、国際会計研究科、法科大学院、法務研修施設、公共政策研究科に加え、国際交流を視野に入れたコミュニケーションセンター機能を収容しています。

1階には、中央大学全体の広報、入口サポート(入学センター)、出口サポート(キャリアセンター)の機能を持つ総合的な窓口である「総合インフォメーション」を設け、大学全体の案内誌や英語版パンフレットな

ど、約80タイトルの大学広報誌を用意しています。

また、受付常駐のスタッフが、大学紹介はもちろん、本学附属校を含む総合学園としての進学相談や、これから社会に出る学生への就職相談にも応じています。

5月15日(土)に開かれた開校式には、約200名の関係者が列席し、新たな都心展開拠点の誕生に大きな期待が寄せられました。



ミドルブリッジ1階「総合インフォメーション」

アカウントिंगスクール(国際会計研究科)

市ヶ谷駅から徒歩5分の新キャンパスを基点に、国際会計を考える

アカウントングスクールは、このたび、今年4月に開校した市ヶ谷田町キャンパス(中央大学ミドルブリッジ)に全面移転しました。新キャンパスは地上15階、地下1階のビルで、市ヶ谷駅から至近の立地にあり、リカレント教育を謳う本研究科にとって最高の立地条件となります。

また、現在活発に議論されている国際財務報告基準(IFRS)の我が国への導入に向けて、2010年度よりカリキュ

ラムを一新します。新カリキュラムでは、他大学に先駆けて、すでにIFRSを導入しているオーストラリアからの専任教員を含め、複数の教員を招聘し、原文でIFRSに関する議論ができる人材を養成し、社会のニーズに合う修了生を輩出していきます。

このように国際会計研究科は、中央大学がめざす真の国際化へ向けて、2010年度より新たなステージへと展開します。

